

レンジフードファン

形名
V-584H4

据付説明書

販売店・工事店様用

据付けを始める前に、この据付説明書をよくお読みください。
据付けは販売店様、または専門の工事店様が実施してください。

- 本製品は住宅の台所用です。業務用途では使用できません。
- 本製品の施行にあたっては、地域により防災上での制限（内装材の制限、補強板・枠の材質の制限、可燃物との距離の制限、ジャバラの使用など）がありますので、詳細は行政官庁または、消防署にお問い合わせください。
- 丸排気タイプの接続ダクトはφ150の鋼板管・スパイラルダクトのいずれかをご用意ください。
- システム部材は三菱換気送風機総合カタログより別途ご利用ください。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。お客様に必ずお渡しください。

安全のために必ず守ること

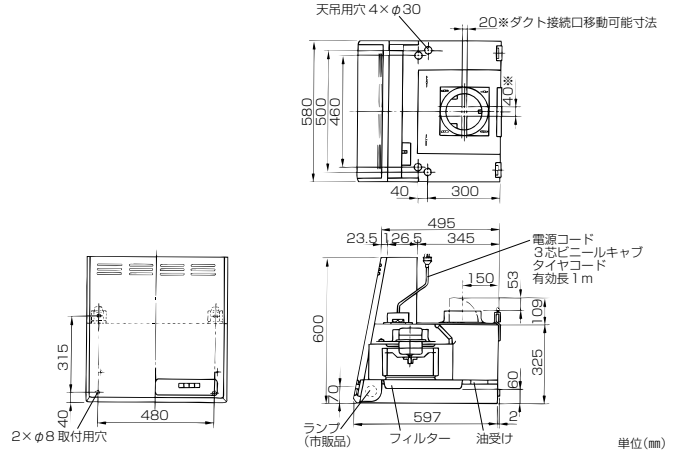
警告		誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	
禁止	電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない (傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、引っ張ったりしない) 感電・ショート・火災の原因。	交流 100V を使用する 直流や交流 200V を使用すると火災・感電の原因。	
指示に従う	内釜式風呂を設置した住宅では使わない 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因。	製品金属部（金属製ダクト）がメタルラス張り、ファイラス張り、ステンレス板などの金属と電気的に接続しないように据付ける 接続されていると漏電した場合火災の原因。	
水かけ禁止	直接水のかかる場所や湿気の多い場所には据付けない 感電および故障の原因。	自然排気形のストーブを使う部屋では、部屋の空気取入口を設ける 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因。	
分解禁止	改造や必要以上の分解はしない 火災・感電・けがの原因。	包装用ポリ袋などは幼児の手の届かない所に廃棄または保管する 幼児が頭からかぶると、窒息の原因。	
アース確認	アースを確実に取付ける 故障や漏電した場合感電の原因。	ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る 通電状態では感電やけがの原因。	

注意		誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの	
禁止	浴室など湿気の多い場所では絶対に据付けない 感電・故障の原因。	本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に 落下によりけがの原因。	
接触禁止	運転中は危険ですから、羽根の中に指や物を入れない けがの原因。	据付けの際は手袋を着用する 着用しないときけがの原因。	
プラグを抜く	据付け後長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る 絶縁劣化による感電や漏電・火災の原因。	電気工事・アース工事は電気工事が行うこと 電気工士以外の方が工事すると、火災・感電・けがの原因。	
		部品の取付けは確実に行う 落下によりけがの原因。	
		電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って有資格者が安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。	
		指定のランプを使用する 間違ったランプを使用するとランプ周辺が高温になり、やけどの原因。	

据付け前のお願い

室内周囲温度は40℃以下とする。また、下図の寸法を守る (本体の下端からガスレンジまでは80cm以上必要です)	本体は水平に据付ける (前後・左右) (羽根当たりや異音の原因になります)
<p>(モータ故障や排気ガスによる塗装面のサビ発生の原因となります)</p>	
ダクト工事 <ul style="list-style-type: none"> ●排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつける。先端に屋外フード（システム部材）などを取付けることをおすすめします。また、屋外フードはメンテナンスができる位置に据付けてください。 ●次のようなダクト工事はしない。(風量低下や異常音発生の原因になります) <ul style="list-style-type: none"> ●極端な曲げ ●多数の曲げ ●吐出口のすぐそばでの曲げ ●しほり ●システム部材の選定には圧損の少ないものを使用してください。(製品性能が得られないことがあります) 	
<p>排気ダクトの先端には条件に合ったシステム部材が用意してあります、ご利用ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鳥などの侵入防止にベントキャップ ●雨水の浸入防止に深形フード ●吹き上げが強いところには耐外風高性能フードを据付けてください。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●室内には専用の給気口を設けるようにしてください。(扉の開閉が困難になったり、製品性能が得られないことがあります) ●風の影響を受けやすいため、空調機や給気口からの風が調理の油煙に直接あたらないようにしてください。(油煙等の漏れの原因となります) 	

外形寸法図

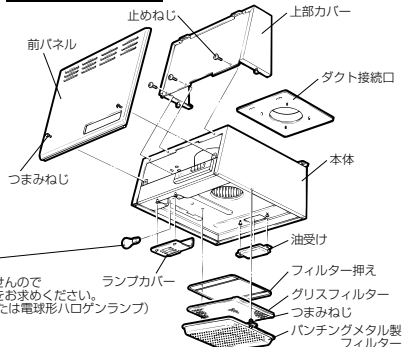


付属部品

●下記の付属部品があります。

壁取付金具.....1個	バックシン.....1個
特殊ワッシャー.....4個	木ねじ用ワッシャー.....4個
木ねじ.....4本	

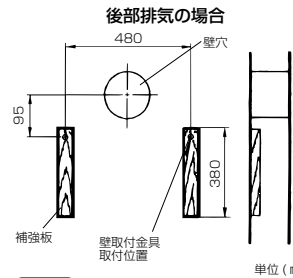
各部のなまえ



据付方法

本体の据付けには、天井据付けと壁据付けがあります。

1 据付け前の準備



ダクト配管・取付壁による準備をします。

板張りの場合

●板厚20mm以上の場合は直接壁に据付けてください。20mm以下の場合は20mm以上になるよう補強板を取付けてください。

コンクリート、タイル、土壁の場合

●新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込んでください。
●既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して据付けてください。

メモ

●既築の住宅では、補強板が壁面より露出することになりますのでレンジフードファンは壁に密着しません。

お願い

●新築・既築により準備が異なりますがいずれの場合も十分強度をもちてください。

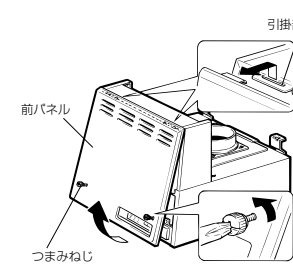
天吊ボルト

●天井据付けの場合は外形寸法図を参照して天吊用穴位置にあらかじめ市販の吊りボルト(M8) 2本を埋め込んでください。

ダクト工事

●壁穴をあけてその中にφ150のダクト(鋼板管・スパイラルダクト)を配管し、その周囲の仕上げを行ってください。

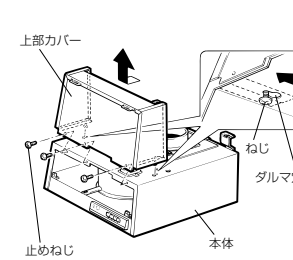
2



前パネルをはずします。

つまみねじ2本をドライバーなどでゆるめ上部の引掛部からはずします。

3



上部カバーをはずします。

止めねじ3本をはずし、本体内部のダルマ穴のねじ2本をゆるめて手前に引きます。

据付方法 づつき

天井据付けの場合

1

吊りボルト (市販品) ナット (市販品) 特殊ワッシャー (付属部品) 本体 天吊用穴

本体を吊りボルトで吊します。

- 外形寸法図を参照して、あらかじめ吊りボルトを埋め込み、市販のナットを取付けておきます。
- 本体の天吊用穴2か所（4か所のうち2か所）を利用して本体を吊りボルトに吊します。
- 左図のように付属の特殊ワッシャーを介してナット（市販品）で固定します。

2

本体 木ねじ 木ねじ用ワッシャー

本体を固定します。
本体内部より壁面に向けて付属の木ねじ・木ねじ用ワッシャー（各2個）で本体を固定します。

壁据付けの場合

1

木ねじ 木ねじ用ワッシャー 壁取付金具

付属の壁取付金具を付属の木ねじ・木ねじ用ワッシャー（各2個）で壁面に水平に据付けます。

2

壁取付金具 本体

本体を壁取付金具に引掛けます。

3

本体 木ねじ 木ねじ用ワッシャー

本体を固定します。
本体内部より壁面に向けて付属の木ねじ・木ねじ用ワッシャー（各2個）で本体を固定します。

ダクト工事

1

ダクト接続口 取付ねじ

ダクト接続口取付位置の調整
あらかじめ配管してあるダクトとダクト接続口とにずれが出た場合は左図の範囲で調整できます。長穴調整になっていますのでねじをゆるめて調整範囲ですらダクトと合わせて再度固定します。

2

ダクト 本体 バッキン ダクト接続口

ダクト接続口を固定します。
ダクト接続口に付属のバッキンを巻き付けダクトを接続し、市販のアルミテープなどで風漏れのないようテーピングします。

電気工事

電源プラグと同形のコンセントを設けて電源プラグを差し込みます。

※アースはD種接地工事を実施してください。

上部カバーの取付け

上部カバー 止めねじ ねじ ダルマ穴 本体

上部カバーを取付けます。

- 上部カバーに付いているねじ2本を本体のダルマ穴にはめ込むように上部カバーを後方へ押し取付けます。
- 本体内部のダルマ穴のねじ2本と本体前面の止めねじ3本をしっかりと締め付けて固定します。

前パネルの取付け

前パネル 引掛部 つまみねじ 本体

前パネルを取付けます。

- 上部の引掛部を本体に引掛けます。
- つまみねじ2本を締め付け、前パネルを本体に固定します。

ランプを取付ける場合

ランプ (100V、60W 形の白熱球または電球形ハロゲンランプ) ランプカバー

ランプは付属されていませんので市販のランプ（100V60W 形の白熱電球または電球形ハロゲンランプ口径26mm）をお求めください。

- ランプカバーのねじ2本をゆるめてランプカバーをはずしてランプを取付けます。
- ランプカバーのダルマ穴をねじに通して締め付け、元通りに固定します。

据付け後の確認

■据付けが完了したら、次の確認をしてください。

警告	ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカーを切る。
	感電の原因。

1. 本体はしっかりと固定されていますか？ランプはゆるんでいませんか？
2. D種接地工事は実施されていますか？

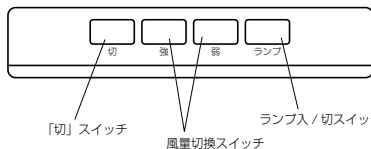
■チェック表にしたがって点検します。不具合があった場合は必ず直してください。

（機能が発揮されないばかりか、安全が確保できません）

〈チェック表〉

	チェック項目	不具合時の対策	チェック
据付け後の確認	本体は確実に固定されていますか？	本体を確実に固定します	
	ランプはゆるんでいませんか？	ランプを確実に取付けます	
	電圧は交流 100V ですか？	交流 100V に直します（直流や異電圧を印加すると製品が破損します）	
	D種接地工事はされていますか？	D種接地工事をします	

■電源プラグをコンセントに差し込み後、次の確認をしてください。



1. 電源プラグはしっかりと差し込まれていますか？
2. ランプ入 / 切スイッチを押すとランプが点灯しますか？
3. 風量切換スイッチを押して風量が切りかわりますか？
4. それぞれの風量で運転した場合、振動や異常音がありませんか？

■試運転後、天井および壁などに内装用接着剤や塗料が使用される場合がありますので、本体の保護のために保護材を覆ってください。